

「暮らしを見つめる」(一年第四単元)

―新聞を活用して―

新しい国語の教材化を考える会

一 はじめに ―教材文について―

本単元は、一年の説明的文章としては第二単元に続いて二回目の学習となる。第二単元は(おそらくは)初めて接する事柄(知識)であり、そこからくる驚きや興味を学習の起点にすることが出来る。一方、本単元は、「自然と環境」に焦点が当てられているが、このテーマは新聞やテレビなどでも取り上げられることが多い。したがって、第二単元に比べると、生徒の意識の中で「初めて接する」という意外性や、そこからくる驚きは少ないと思われる。しかし、このことが教材の価値を減ずるものとはならないし、初発の驚きが少ないことは、学習を行ううえで必ずしもマイナスにはならない。むしろ学習の素地ができていると考え、それを授業の中で活用することが大切である。また、授業時数を考えると二つの教材を同等に扱うことには無理があるだろう。学習の目的を明確にし、焦点化する必要がある。

第一教材「魚を育てる森」は論の進め方も明解で理解しやすい。環境への影響や自然のバランスなどの論理の展開は第二教材よりも第一教材の方が精緻である。論の展開や段落構成などの説明文としての学習は、主に「魚を育てる森」を中心に行うように考えた。一方、「魚を育てる森」に比べると、『めぐる輪』の中で生きる「の文章はより平明でわかりやすい。前半の「めぐる輪」の部分で丁寧に押さえれば、後半は具体的な事例も多く生徒の学習体験などもあり、内容を押さえることは難しくない。『めぐる輪』の中で生きる」では、生徒自身で内容を読み取るようにする。

二 生徒の実情を把握する

「環境問題」はマスメディアなどで取り上げられることが多いだけでなく、小学校でもすでに学習を行っている。例えば、「総合的な学習の時間」の環境学習で、清掃工場の見学などを行っている生徒もいる。また、課題

学習で、図書室の資料を使って班ごとにテーマを決めて調べ、発表するという活動を行った生徒もいた。

類似のテーマで類似の活動を行うことが悪いとは必ずしもいえないが、学習の計画を考えるうえでは十分に配慮する必要がある。今回の学習活動においては重複を避けることを考えた。具体的には、個人で課題についてアプローチを行う活動を考えて。

三 実践

○ 基本的な考え

説明文の基本的な学習内容はもちろん確実に押さえる必要がある。しかし、この単元の学習を契機として、自分たちと社会とのつながりを考えるようにしたい。携帯電話やメールやチャットなどの普及だけが原因ではないと思うが、「仲間内」という狭い範囲での情報交換やコミュニケーションに終始しがちな傾向があることから、広く情報を得て、広く情報を発信する学習を行いたいと考えた。「環境保全」や「自然保護」などは多様な視点からの情報収集が可能であり、新聞やテレビなどを参考資料とすることもできる。それらを情報源として活用しながら、自分たちの生活と社会とのつながりを考えることもできると考えた。

○ 学習の継続性(学習の時期)

年間計画で予定されている九月という時期は「夏休み明け」であり、「体育祭などの学校行事」が計画されていることが多い。さまざまな事情によって授業が途切れてしまい、学習の継続性が保てないことがある。これについては、日常的に簡単に実践できる課題として新聞記事の切り抜きを設定し、授業と並行して行うことで学習の継続性をもたせようと考えた。

新聞記事の切り抜きと感想・意見の提出は、生徒の負担も少なく、活動を組みやすい。また、授業で学習している環境や自然に関する内容が新聞やテレビなどで扱われていることで、学校で学習している内容が現実の問題であることを実感し、学習意欲にもつながると考えた。

○ 新聞記事を紹介する

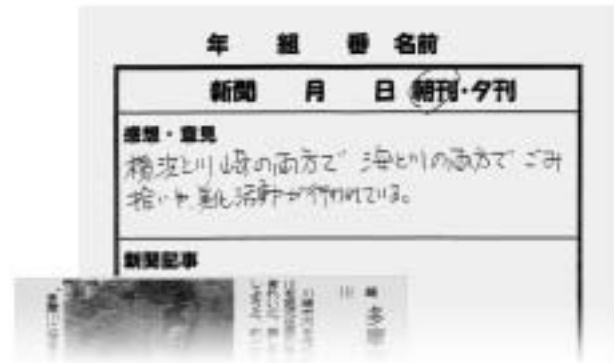
前項でも述べたが、教材文の学習と並行して行う活動として「新聞記事の紹介」を提示した。当日の新聞でなくても一週間程度前の新聞でもよく、他の人に知らせたい「環境」や「自然」に関係する新聞記事を切り抜いて提出することを課題とした。提出された切り抜きは教室内に(後に廊下の壁面にも)掲示した。

この課題の説明は、導入時に行った。生徒へは、「環境の保全や自然保護に関する新聞記事で、みんなに知ら

せたい（読んでほしい）記事を探そう」と説明をした。新聞記事の切り抜きは用紙（台紙）に貼り付けて、感想・意見を書いて提出する。（資料1）提出については授業時以外でも受け付けた。

また、環境や自然保護に関するテレビ番組などで、みんなに知らせたいものがあれば、それを用紙に記入して提出することにした。

資料1



○指導の実際

導入時のテーマや内容の理解は速やかであった。自然や環境に関する事柄には小学校以来の蓄積があったためと思われる。新聞記事の切り抜きについても興味を示した。用紙を全員に配布し、新聞を使って説明を行った。

展開1の内容把握の中で、襟裳岬の住民の苦労は実感的にはとらえられなかったようだが、海の生物の消滅と陸地との関係（メカニズム）はわかりやすかったようである。展開2についてはプリントを活用した。詳細に立ち入らず、大きく把握するようにした。文章のわかりやすさもあって、生徒は内容把握にとまどくことは少なかった。この活動と並行して、新聞記事の切り抜きの提出も行ったのだが、当初は「ごみ拾い・美化活動」のように見出しだけで内容のわかるものがほとんどだった。展開1・2と学習が進むにしたがって、切り抜きも多様になってきた。自然保護のメカニズム（「めぐる輪」）などの理解が深まったことによると考えている。

「見出しで見当をつけて記事を読んで確認する」という記事発見までのプロセスは変わらないようだが、「見出し」が「環境や自然」につながるかどうかという感覚が鋭くなった。同時に「環境や自然」に関する知識

この新聞の切り抜きの学習では、新聞を扱うことで、「新聞を読む」習慣をつける契機としたいという思いもあった。新聞はテレビなどと同様に社会の情報伝達の基幹をなしている。しかし、テレビには幼少のときからなじんでいるのに比べると、新聞は必ずしもそうとはいえない。新聞には読むきっかけが必要なのかもしれない。新聞は、どう読むかも含めて、取り上げて学習する価値がある題材であり、できれば中学生の比較的早い時期に学習課題として取り組みたいという思いがあった。

○指導の流れ（七時間）

導入（一時間）

単元名とリード文から内容を考える。

新聞に関する課題（環境や自然に関する切り抜きを集めること）を伝える。

展開1（三時間）

第一教材の内容や要旨をとらえる。

展開2（二時間）

第二教材の内容や要旨をとらえる。

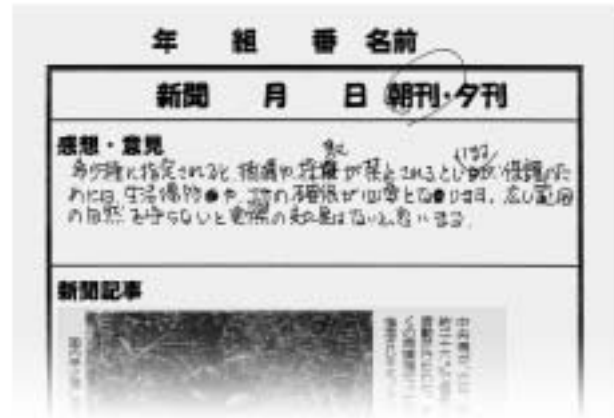
まとめ（一時間）

筆者の考えの押さえと切り抜きの学習活動の評価を行う。

が広くなり、多様なとらえ方ができるようになったことにもよる。実際、感想・意見の記入も多様になっている。

例えば、希少動物指定の記事を環境保護の面からとらえている。（資料2参照）この切り抜きには、「希少種に指定されると捕獲や採取が禁止されるといいますが、保護のためには生活場所やエサの確保が必要となります。広い範囲の自然を守らないと実際の効果はないと思います。」という感想・意見が記されていたが、これには「魚を育てる森」の食物連鎖の発想がうかがえる。また、カーレースの『燃費抜群』で栄誉』の記事の切り抜きがあったが、感想・意見の中で、「資源のむだ遣いが減り、私たちが呼吸する空気が汚れない（汚れが少ない）」との表現があった。これも『めぐる輪』の中で生きる』の学習の成果と考えられる。もちろん、まとめの段階でも環境美化活動や河川の浄化のようなものもあったが、展開1・2の学習の進展に従って、環境の保全や自然の保護等に関するところえ方が多様になったことがうかがえる。新聞の切り抜きの活動を並行して行ったことによって、展開1・2の学習の理解の過程なども知ることができた。

資料2



まとめは、「自然と環境に私たちはどうかかわりをもつか」という視点で、教材文と新聞の切り抜きの両方をまとめるような形で行った。新聞の取り組みは教材文の事例を補つものとして有用であった。自分の提出した切り抜きが教材と同様に扱われることは、生徒のやる気を刺激した。新聞の切り抜きの評価をする中で、教材文の

ある・すべてが同じではない・本当かな）も変わってきたように思う。これらは予想外の成果だった。

情報の収集については新聞の価値を理解したようだ。しかし、発信については、生徒自身は明確に意識するまでには至っていない。しかし、自分の切り抜きが多数の人に見られ、評価されることは楽しいと感じたようだ。新聞を以前より丁寧に見るようになったことは事実だが、情報を提供することの責任となると現時点では十分とはいえない。これは今後の課題だろう。

テレビ番組の紹介については順調にかなかった。テレビ番組を見ての紹介は、作文のようであり、たとえば五分程度の番組でもかなり難しいようであった。行った生徒によれば、「言葉が難しい。メモが取れない。」ということであった。テレビのテンポの速さを書くこと、まとめることがついていけないというのが実情だろう。

最後に自分の住む地域社会とのつながりを考えることと、マスメディア以外の情報として、県や市、区の広報（便り）の紹介をした。自然や環境に関する情報やボランティア活動などさまざまな情報が載っていることを知らせたかったからである。役所の広報の類は、中学生はほとんど見ていない。（多いクラスでも五人程度）しかし、この活動の後では、それなりに興味をもったようだ

筆者の意見も十分に反映されていた。環境・自然というテーマがわかりやすい（ある意味では「類型化されている」）ことによるのかも知れない。

四 おわりに

指導書では十三時間扱いの単元であるが、ほぼ予定どおりの七時間で終えることができた。小学校以来の自然や環境にかかわる学習の蓄積は大きかったように思う。

学習の期間は約三週間に及んだ。展開1・2の学習では時間割の都合で五日間も授業がなかったクラスがあった。しかし、授業の初めに五分程度の切り抜きの紹介をしたこともあり、速やかに学習に入れたように思う。新聞の切り抜きはゲーム感覚的なところがあり、最初は同じ切り抜きが多く出されたが、進めるに従って他の人と違ったものを出そうという雰囲気も出てきた。授業がないときでも切り抜きを探すことで、学習の継続性が保たれたと判断している。また、授業の内容理解と切り抜きが相乗効果をあげたと考えている。

切り抜きに関する感想や意見の中に、「新聞によって記事の扱いが異なることやテレビと新聞の扱いが違うこと」と、記事が出ている新聞とそうでない新聞があることなどに気がついた。」というものもあった。新聞やテレビといったマスメディアに対する評価（いろいろな書き方が

ある。情報を求める意識は多様に広がったように思う。

新聞の切り抜き活動は生徒にとって楽しかったようである。要望もあり、自由課題として継続して行うことにした。課題は自由とし、期間は二週間程度とした。当初は自分で課題を決めて、あるいは課題を決めずに自由ということにしたのだが、生徒の希望で課題を決めることになった。生徒の意見を聞くと、「年金」「イラク（サマワ）の自衛隊」など、授業を行った時期の記事が多かった。このことから考えると、新聞をかなり読んだことはわかる。しかし、課題を決めるときにいちばん多かった意見は、授業と同じ「環境と自然」だった。「新聞を読む」ことについては、最初の一步というのが正直なところだろう。